

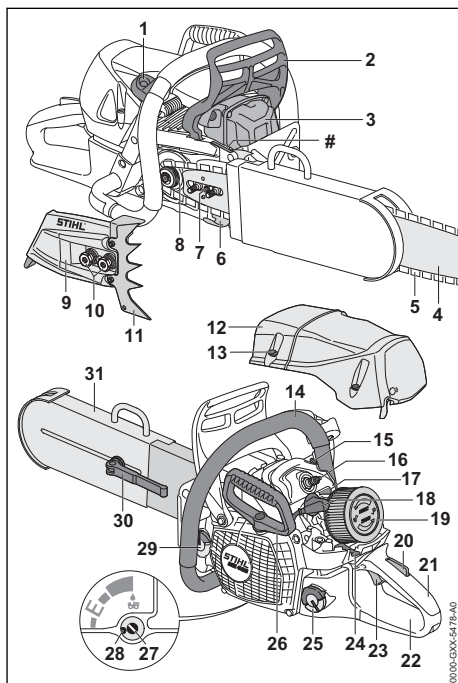
MS 462 C-M R

STIHL



2 - 27 取扱説明書





- 1 ツールホルダー
コンビネーションレンチを収めます。
- 2 前ハンドガード
チェンがオペレーターの手左に接触するのを防ぎ、チェンブレイキを作動させるレバーとして働き、特定のキックバック状況下で慣性力によってチェンブレイキを作動させます。
- 3 マフラー
チェンソーが発する騒音を低減します。
- 4 ガイドバー
ソーチェンを支え、導きます。
- 5 ソーチェン
木を切断します。
- 6 チェンキャッチャー
バーから外れるか、破断したチェンがオペレーターに接触する危険を低減します。
- 7 テンショニングスクリュー
チェンの張りを調整します。
- 8 チェンスプロケット
チェンを駆動させる歯車。
- 9 チェンスプロケットカバー
チェンスプロケットを覆い、ガイドバーをチェンソーに固定します。
- 10 ナット
チェンスプロケットカバーをチェンソーに固定します。
- 11 パンバースパイク
鋸断中にチェンソーを木材に安定的に接触させ続けるための歯付きストップ。
- 12 シュラウド
エンジン用カバー
- 13 ツイストロック
シュラウドをチェンソーに固定します。
- 14 ハンドルバー
チェンソーの保持、制御、運搬用に使います。
- 15 デコンプバルブ
エンジンを始動しやすくします。
- 16 スパークプラグ
エンジン内の混合気に点火します。
- 17 シャッター
夏季または冬季作動モードの設定用。
- 18 スパークプラグターミナル
イグニッションリードをスパークプラグに接続します。
- 19 エアフィルター
エンジン吸気を濾過します。
- 20 スロットルトリガーロックアウト
スロットルトリガーのロックを解除します。

- 21 コントロールハンドル
チェンソーの操作、保持、制御に使います。
- 22 後ハンドガード
バーから外れるか、破断したチェンがオペレーターの手右に接触するのを防ぎます。
- 23 スロットルトリガー
エンジン回転数を制御します。
- 24 マスターコントロールレバー
エンジンの始動、運転、および停止用。
- 25 燃料タンクキャップ
燃料タンク用の蓋。
- 26 スターターグリップ
エンジンのクランキング用
- 27 オイルポンプ調整スクリュー
チェンオイル供給量を調整します。
- 28 ストップ
オイルポンプ調整スクリューの回転範囲を制限します。
- 29 オイルタンクキャップ
オイルタンクの蓋。
- 30 クイックリリースクランプ
デブスリミッターの調整用に使います。
- 31 デブスリミッター
切り込み深さを調整します。

機械番号

3.2 記号

チェンソーに表示されている記号の意味：



この記号は、燃料タンクを示しています。



この記号は、チェンオイルタンクを示しています。



チェンブレイキは、この方向で掛かります/解除されます。



この記号は、チェンの回転方向を示しています。



この記号は、オイルポンプ調整スクリューとチェンオイル供給量を示しています。



この方向に回転させると、チェンの張りが増します。



シャッターは、この位置では冬季モードに設定されています。



シャッターは、この位置では夏季モードに設定されています。





この記号は、デコンプバルブを示しています。

 マスターコントロールレバーをこの方向に動かすと、エンジンが停止します。

 マスターコントロールレバーをこの位置に動かすと、エンジンが停止します。

 マスターコントロールレバーがこの位置で、エンジンは作動します。

 マスターコントロールレバーがこの位置で、エンジンは始動します。


 **LWA** 製品が発する騒音を比較できるよう、指令 2000/14/EC に準拠して決定された dB(A) 単位の音響出力レベル保証値。

4 安全に関する重要事項


4.1 警告標示

チェンソー上の警告標示の意味：

 安全上の注意事項を遵守し、必要な予防措置を講じてください。

 製品をお使いになる際は、本取扱説明書をよくお読みいただき、ご理解ください。また本書は必ず保管してください。

 保護メガネ、イヤープロテクター、ヘルメットを着用してください。

 キックバックに関する安全通知を遵守し、必要な予防措置を講じてください。

4.2 用途

STIHL MS 462 C-M R チェンソーは、レスキュー作業用に設計されています。MS 462 C-M R チェンソーでは次の素材や物体を鋸断できます：

- － シートメタル製ケース
- － 厚みが 0.8 mm までの鉄製シート
- － 厚みが 1.5 mm までの銅製シート
- － 厚みが 1.5 mm までのアルミニウム製シート
- － アルミニウム製シャッタードア
- － 強化ガラス
- － 列車の窓
- － 網入りガラス
- － 屋根用フェルト
- － アスファルトフェルト
- － 木製構造物
- － 断熱材
- － 軽量壁材
- － 軽量石材

▲ 警告

- 設計された目的以外でチェンソーを使用すると、重傷または致命傷や器物損壊の原因になるおそれがあります。

- ▶ チェンソーは、本取扱説明書に従って使用してください。

4.3 作業者

▲ 警告

- チェンソーを使用したレスキュー作業を行う訓練を受けていない使用者は、危険を認識/認知できません。使用者または他の人員が重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 製品をお使いになる際は、取扱説明書をよくお読みいただき、ご理解ください。また本書は必ず保管してください。
- ▶ このチェンソーを譲渡する場合：必ず本取扱説明書を一緒に手渡してください。
- ▶ 使用者が以下の必要条件を満たしていることを確認してください：
 - － 使用者は十分な休息をとっている。
 - － チェンソーを使用したレスキュー作業を行う訓練を受けた。
 - － チェンソーを使用するために適切な身体的および精神的状態にある。
 - － 使用者はチェンソーの危険を認知することができ。
 - － 使用者は法定年齢に達しているか、国の規則や規制に従った監督下での職業訓練を受けていなければなりません。
 - － 使用者はアルコールまたは薬物の影響を受けていてはなりません。
- ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- チェンソーのイグニッションシステムは、電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 使用者がペースメーカーを着用している場合：ペースメーカーが影響を受けないことを確認してください。

4.4 衣服と装備

▲ 警告

- 長髪は、作業中にチェンソーに引き込まれるおそれがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。
- 作業中は、物体が高速で飛散することがあります。それにより負傷するおそれがあります。
 - ▶ 確実にフィットする保護メガネを着用してください。欧州基準 EN 166 または日本の基準に従って試験され、ラベルが付けられている適切な保護メガネが販売されています。
 - ▶ フェイスシールドを着用してください。



- ▶ 身体に合った長袖の上着を着用してください。
- 操作中は騒音が発生します。騒音は聴力障害の原因になるおそれがあります。



- ▶ イヤープロテクターを着用してください。

- 落下物で頭部を負傷するおそれがあります。



- ▶ 作業中に物が落下する危険が高いときは、ヘルメットを着用してください。

- 作業中は、粉塵が巻き上げられることがあります。巻き上げられた粉塵は気道を傷付け、アレルギー反応を引き起こすおそれがあります。
- ▶ 防塵マスクまたはレスピレーターを着用してください。

- 不適切な衣服は物やチェーンに絡まるおそれがあります。適切な衣服を着用しないと、重傷を負うおそれがあります。

- ▶ 体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

- ▶ スカーフや装身具は外してください。

- 作業中、使用者は回転するソーチェーンに接触することがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。

- ▶ 切断保護機能のある長ズボンを着用してください。

- 作業中に尖った物体でケガをするおそれがあります。清掃中または整備中にソーチェーンに接触するおそれがあります。それにより負傷するおそれがあります。

- ▶ 耐切創手袋を着用してください。

- 不適切な履物を履くと、滑るおそれがあります。回転するソーチェーンに接触すると、切り傷を負うおそれがあります。それにより負傷するおそれがあります。

- ▶ 切断保護機能付きのチェーンソーブーツを着用してください。

4.5 作業エリアおよび周辺環境

▲ 警告

- 見物人、子供、動物は、チェーンソーまたは飛散物の危険を認識していません。無知な見物人、子供、動物は重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
- ▶ 作業エリアに見物人、子供、動物を近づけないでください。
- ▶ チェーンソーを無人のまま放置しないでください。
- ▶ 子供がチェーンソーで遊ばないように注意してください。
- エンジン作動中はマフラーから高温の排気ガスが排出されます。高温の排気ガスによって

可燃物が引火し、火災が生じるおそれがあります。

- ▶ 排気ガスは可燃物から十分に離してください。

4.6 安全に関する条件

4.6.1 チェンソー

チェンソーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- チェンソーが損傷していない。
- チェンソーから燃料が漏れていない。
- 燃料タンクとオイルタンクのキャップが閉まっている。
- チェンソーが掃除されている。
- チェンキッシャーが装着され、損傷していない。
- チェンブレイキが正常に作動する。
- 操作部が正常に作動し、改造されていない。
- チェンの潤滑が正常に行われている。
- チェンスプロケットの摩耗の深さが 0.5 mm 未満。
- 本書内で推奨されているガイドバーとソーチェーンの組み合わせが装着されている。
- ガイドバーとソーチェーンが適切に装着されている。
- デブスリミッターが装着され、損傷していない。
- ソーチェーンの張りが適正になっている。
- 本チェーンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリだけが取り付けられている。
- アクセサリが適切に取り付けられている。

▲ 警告

- 安全な状態にない場合、部品が正常に作動しなくなり、安全装置が働かなくなり、燃料が漏れ出すおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。
- ▶ チェンソーは必ず損傷のない状態で使用してください。
- ▶ チェンソーから燃料が漏れている場合：チェーンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- ▶ 燃料タンクとオイルタンクのキャップを閉めます。
- ▶ チェンソーが汚れた場合、チェーンソーを掃除してください。
- ▶ 必ず損傷のないチェンキッシャーを適切に取り付けて使用してください。
- ▶ チェンソーは絶対に改造しないでください。例外：本書内で推奨されているガイドバー、ソーチェーン、およびデブスリミッターの組み合わせの装着。
- ▶ 操作部が正常に作動しない場合、チェーンソーを使用しないでください。

- ▶ 必ず本チェーンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリーを装着してください。
- ▶ ガイドバーとソーチェンは本取扱説明書に従って取り付けてください。
- ▶ デブスリミッターは本取扱説明書に従って取り付けてください。
- ▶ アクセサリーは、本取扱説明書またはアクセサリーに付属する取扱説明書に従って装着してください。
- ▶ 絶対にチェーンソーの開口部に物を差し込まないでください。
- ▶ 摩耗するか、損傷したラベルは交換してください。
- ▶ ご不明な点は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

4.6.2 ガイドバー

ガイドバーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- － ガイドバーが損傷していない。
- － ガイドバーが変形していない。
- － 溝の最小深さが維持されている。☐ 19.3
- － パーレールからバリが取り除かれている。
- － バーの溝が狭められたり、広がったりしていない。

▲ 警告

- ガイドバーが安全な状態にないときは、ソーチェンは適切に支持されず、正常に導かれなくなります。回転するソーチェンがガイドバーから飛び出すおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ ガイドバーは必ず損傷のない状態で使用してください。
 - ▶ 溝の深さが最小深さ以下の場合：新品ガイドバーを取り付けてください。
 - ▶ 毎週、ガイドバーからバリを取り除いてください。
 - ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店にご連絡ください。

4.6.3 ソーチェン

ソーチェンは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- － チェンが損傷していない。
- － チェンが適切に目立てされている。
- － カッターのサービスマークがまだ見えている。

▲ 警告

- 部品が安全要件を満たしていない場合は、正常に作動しなくなるか、安全装置が作動しなくなるおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ ソーチェンは必ず損傷のない状態で使用してください。

- ▶ チェンを適切に目立てしてください。
- ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

4.7 混合燃料と給油

▲ 警告

- 本チェーンソーにはガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料が必要です。混合燃料とガソリンは、可燃性が極めて高い液体です。混合燃料またはガソリンが裸火や高温の物体に触れると、火災や爆発が生じるおそれがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ 混合燃料とガソリンは、熱源や炎から保護してください。
 - ▶ 混合燃料やガソリンをこぼさないでください。
 - ▶ 燃料をこぼした場合は、布で拭き取り、チェーンソーの全部品が乾くまではエンジンを始動しないでください。
 - ▶ 喫煙しないでください。
 - ▶ 火気の近くでは給油しないでください。
 - ▶ 必ずエンジンを切り、冷ましてから、燃料を給油してください。
 - ▶ 給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。
- 燃料/ガソリンの気化ガスには毒性があります。
 - ▶ 燃料/ガソリンの気化ガスは吸い込まないでください。
 - ▶ 換気の良い場所で給油してください。
- チェンソーは、使用中や気温が非常に高い環境下では高温になります。燃料の種類、標高、周囲温度、チェーンソーの温度によっては、燃料が膨張してタンクの内圧が高まる場合があります。燃料タンクキャップを開けると、霧状の燃料が吹き出し、引火するおそれがあります。使用者が重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ チェンソーを冷ましてから燃料タンクキャップを開けてください。
 - ▶ 燃料タンクキャップは一度の操作で完全に開けるのではなく、ゆっくりと開けてください。
- 燃料やガソリンが付着した衣服は、引火しやすくなります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ 衣服に燃料またはガソリンが付着したときは：着替えてください。
- 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルは、環境に有害です。
 - ▶ 燃料、ガソリン、または 2 ストロークエンジンオイルは、こぼさないでください。

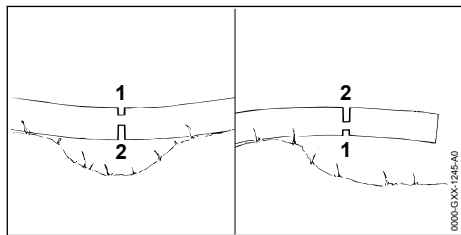
- ▶ 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルは、地域の規制と環境要件に従って処分してください。
- 皮膚に付着するか、目に入ると、混合燃料、ガソリン、または 2 ストロークエンジンオイルは炎症を引き起こすことがあります。
 - ▶ 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルには触れないでください。
 - ▶ 皮膚に付着したときは、大量の水と石鹸で付着した部分を洗浄してください。
 - ▶ 目に入った場合、大量の水で 15 分以上洗眼し、医師の診察を受けてください。
- チェンソーのイグニッションシステムは火花を発生します。引火や爆発が起きやすい環境下では、エンジン外部の火花によって火災や爆発が生じるおそれがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ スパークプラグは、本取扱説明書に従って使用してください。
 - ▶ スパークプラグを差し込み、確実に締め付けます。
 - ▶ スパークプラグターミナルを接続し、確実に押し込みます。
- 不適切なガソリンや不適切な 2 ストロークエンジンオイルから成る混合燃料を使用するか、ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合比率が不適切な混合燃料を使用すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
 - ▶ 燃料は、本取扱説明書に従って混合してください。
- ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料は、長期にわたって保管すると分離するか、劣化することがあります。分離したり、劣化したりした混合燃料を使用すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
 - ▶ チェンソーに給油する前に、燃料を十分に混合してください。
 - ▶ 混合してから 30 日以内のガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料を使用してください (STIHL MotoMix の場合は、5 年以内に使用してください)。
- ▶ ソーチェンが地面または物体と接触している場合：エンジンを始動しないでください。
- 特定の条件下では、ユーザーは作業に集中できなくなることがあります。ユーザーがチェンソーの制御を失ったり、つまずいたり、転倒したりし、重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 冷静かつ慎重に作業を行ってください。
 - ▶ 明るさと視界が不十分な場合：チェンソーを使用しないでください。
 - ▶ チェンソーは一人で操作してください。
 - ▶ 肩より上の高さで作業しないでください。
 - ▶ 障害物に注意してください。
 - ▶ 機械の操作中は地面に立ち、バランスを保ちます。高所での作業が必要な場合：リフトバケットまたは安全な台を使用してください。
 - ▶ 疲れを感じたら：休息をとってください。
- エンジン作動中は排気ガスが排出されます。排気ガスは、吸い込むと有害です。
 - ▶ 排気ガスは吸い込まないでください。
 - ▶ チェンソーは換気の行き届いた場所で使用してください。
 - ▶ 吐き気、頭痛、視覚障害、聴覚障害、めまいが生じた場合：作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- エンジン作動中にイヤープロテクターを着用している場合、音が聞こえにくくなります。
 - ▶ 冷静かつ慎重に作業を行ってください。
- マスターコントロールレバーが▲の位置のときは、チェンソーを適切に制御できなくなります。それにより重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ マスターコントロールレバーをⅠの位置に動かします。
 - ▶ 取扱説明書に従ってエンジンを始動してください。
- チェンブレイキが損傷するおそれがあるため、チェンブレイキを掛けたままエンジンを加速させないでください。
 - ▶ チェンブレイキを解除してから鋸断を開始してください。
- 回転するソーチェンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 回転するソーチェンには触れないでください。
 - ▶ ソーチェンに障害物が挟まった場合：エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。挟まった障害物を取り除きます。
- 回転中のチェンは高温になり、膨張します。潤滑が不十分で、張り具合を定期的に調整しない状態では、チェンガイドバーから外れるか、破断することがあります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ 専用チェンオイルを使用してください。

4.8 切断作業

▲ 警告

- 常に、必要な時に声をせれば、人が助けに来ることができる範囲内で作業してください。
 - ▶ 作業エリア外の人に声が届く範囲内で作業してください。
- エンジンを適切に始動しないと、ユーザーがチェンソーの制御を失うことがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 取扱説明書に従ってエンジンを始動してください。

- ▶ 鋸断作業中は、定期的にチェーンの張りを点検します。チェーンの張りが不十分な場合：チェーンを張ります。
- 操作中にチェーンソーの動作が変化するか、異常を感じたときは、機械がもはや安全な状態にない可能性があります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
- ▶ 作業を中止し、STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- 作業中、チェーンソーは振動することがあります。
- ▶ 手袋を着用してください。
- ▶ 定期的に休憩をとります。
- ▶ 血行不良の兆候が見られたときは：医師の診断を受けてください。
- 回転するチェーンが硬い物体に接触すると、火花が発生することがあります。引火しやすい場所では、火花によって火災が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
- ▶ 引火しやすい場所では、作業を行わないでください。
- スロットトリガーを放してもソーチェーンはしばらく回転し続ける点に注意してください。回転するソーチェーンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
- ▶ チェーンが完全に停止するまで待ちます。

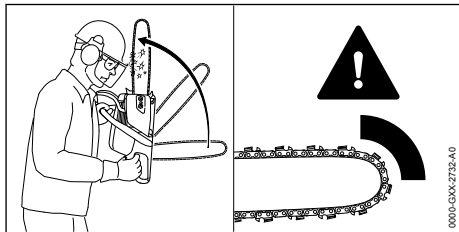


▲ 警告

- 張力がかかっている物体の鋸断中にガイドバーが挟まれることがあります。ユーザーがチェーンソーの制御を失い、重傷を負うおそれがあります。
- ▶ まず圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れ、次に張力がかかっている側 (2) を玉切りします。

4.9 反発力

4.9.1 キックバック

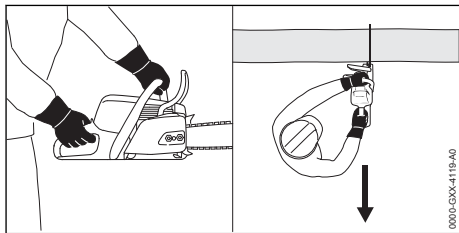


キックバックは、以下の理由で生じることがあります：

- ガイドバー先端上部 1/4 の部分で回転するソーチェーンが硬い物体に触れ、急停止した。
- 回転するソーチェーンがバー先端部で挟まった。

チェンブレイキでキックバックの発生を防ぐことはできません。

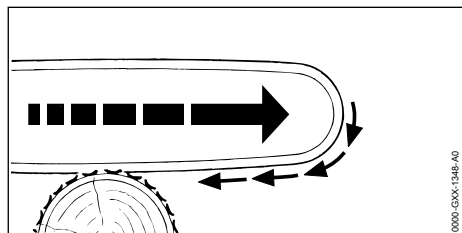
▲ 警告



- キックバックが生じると、チェーンソーがオペレーターの方向に跳ね上がることがあります。チェーンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
- ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。
- ▶ 体を常にカッティングアタッチメントの面から離してください。
- ▶ 本取扱説明書に記載されている推奨作業方法に従ってください。
- ▶ バーの先端上部 1/4 部分を使用しないでください。
- ▶ 必ず適切に目立てをし、張り具合を調整をしたソーチェーンで鋸断してください。
- ▶ キックバック低減ソーチェーンを使用してください。
- ▶ 先端部の径が小さいガイドバーを使用してください。
- ▶ 常にチェーンを最高速で作動させて鋸断してください。
- レスキュー作業中にバー先端部を使用する必要があります。鋸断にバー先端部を使用すると、キックバックが生じる危険性が高まります。チェーンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。

- ▶ 使用者がチェーンソーを使用したレスキュー作業を行う訓練を受けたかどうか確認してください。

4.9.2 ブルイン

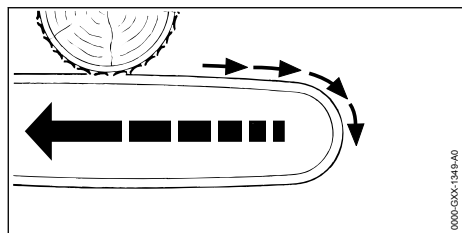


バーの下部を切断に使用すると、ソーが作業者から遠ざかる方向に引かれます。

▲ 警告

- 回転するチェンが硬い物体に当たったり、急に挟まれたりすると、チェーンソーが作業者から遠ざかる方向に唐突に引っ張られることがあります。チェーンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。
 - ▶ チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
 - ▶ ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。
 - ▶ バンパースパイクを適切にかみ合わせます。
 - ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

4.9.3 プッシュバック



バーの上部を切断に使用すると、ソーが作業者の方向に押し戻されます。

▲ 警告

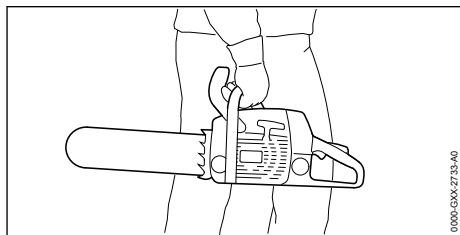
- 回転するチェンが硬い物体に当たったり、急に挟まれたりすると、チェーンソーが作業者の方に唐突に押し戻されることがあります。チェーンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。

- ▶ チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
- ▶ ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。
- ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

4.10 運搬

▲ 警告

- チェンソーは運搬中に倒れたり、ずれたりするおそれがあります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ エンジンを切ります。
 - ▶ チェンプレーキを掛けます。
 - ▶ ガイドバーを完全に覆うようにデブスリミッターを調整します。
 - ▶ 転倒したり、ずれたりしないよう、チェンソーを固定ストラップまたはネットで固定します。



- しばらく使用すると、マフラーとエンジンが高温になる可能性があります。火傷を負う危険性があります。
 - ▶ チェンソーは、右手で前ハンドルを持ち、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。

4.11 保管

▲ 警告

- 子どもはチェーンソーの危険を認識/認知できず、重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ エンジンを切ります。
 - ▶ チェンプレーキを掛けます。
 - ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
 - ▶ チェンソーは子どもの手の届かないところに保管してください。
- 湿気によってチェーンソーの電気接点や金属製部品が腐食することがあります。それによりチェーンソーが損傷することがあります。
 - ▶ チェンソーは、清潔な乾いた状態で保管してください。

4.12 清掃、整備、修理





▲ 警告










- 清掃、整備、または修理時にエンジンを作動させておくと、ソーチェーンが偶発的に回転し始めるおそれがあります。それにより重傷を負ったり、物的損害につながったりするおそれがあります。
 - ▶ エンジンを切ります。
 - ▶ チェンブレイキを掛けます。
- 使用後は、マフラーとエンジンが高温になっています。それにより火傷を負うおそれがあります。
 - ▶ マフラーとエンジンが冷えるまで待ちます。
- 刺激の強い洗浄剤、高圧洗浄機、または尖った物体は、チェンソー、ガイドバー、ソーチェーンを損傷させるおそれがあります。チェンソー、ガイドバー、ソーチェーンを適切に清掃しないと、部品が正常に機能しなくなるか、安全装置が働かなくなることがあります。それにより重傷を負うことがあります。
 - ▶ チェンソー、ガイドバー、ソーチェーンは本取扱説明書に従って清掃してください。
- 使用者がチェンソーの修理を行った場合、部品が正常に作動しなくなるか、安全装置が機能しなくなるおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ チェンソーの修理を試みないでください。
 - ▶ チェンソーに整備や修理が必要なときは：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- ガイドバーとソーチェーンを本取扱説明書に従って整備/修理しないと、部品が正常に作動しなくなるか、安全装置が働かなくなるおそれがあります。それにより重傷を負うことがあります。
 - ▶ ガイドバーとソーチェーンの整備や修理時は、本取扱説明書に従ってください。
- ソーチェーンの清掃中や整備中に、鋭利なカッターでケガをする場合があります。それにより負傷するおそれがあります。
 - ▶ 耐切創手袋を着用してください。

5 チェンソーの使用準備

5.1 チェンソーの使用準備

作業を開始する前に、以下の手順に従ってください：


- ▶ 以下の部品が安全な状態になっているか確認します：
 - チェンソー、 4.6.1。
 - ガイドバー、 4.6.2。
 - ソーチェーン、 4.6.3。
- ▶ チェンソーを清掃します、 15.1。

- ▶ バーとチェンを取り付けます、 6.1.1。
- ▶ デブスリミッターを取り付けます、 6.2.1。
- ▶ ソーチェーンを張ります、 6.3。
- ▶ チェンオイルを給油します、 6.4。
- ▶ チェンブレイキを点検します、 10.4。
- ▶ チェンソーに給油します、 8.2。
- ▶ 操作部を点検します、 10.5。
- ▶ チェンの潤滑状態を点検します、 10.6。
- ▶ デブスリミッターを調整します、 11.5。
- ▶ 上記の作業を行うことができない場合は：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

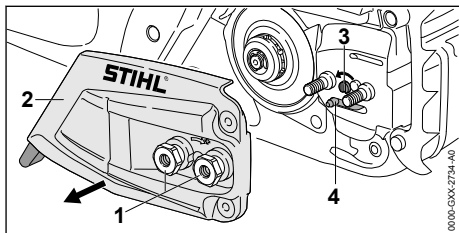
6 チェンソーの組み立て

6.1 バーとチェンの取り付け/取り外し

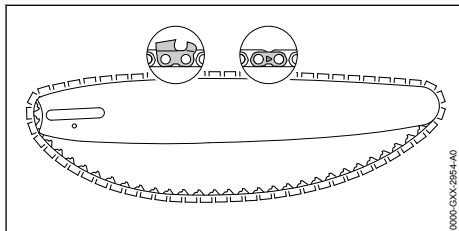
6.1.1 バーとチェンの取り付け

チェンスプロケットと共に使用可能なバーとチェンの組み合わせは、仕様書、 20.1に記載されています。

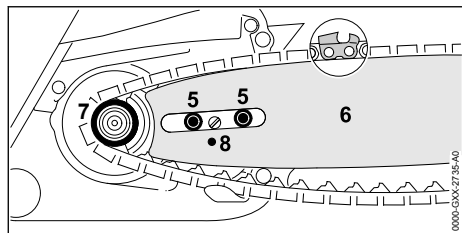
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。



- ▶ チェンスプロケットカバー (2) が取り外し可能な状態になるまでナット (1) を反時計回りに回します。
- ▶ チェンスプロケットカバー (2) を取り外します。
- ▶ テンショナースライド (4) がハウジングの左端に当たるまで、テンショニングスクリュー (3) を反時計回りに回転させます。



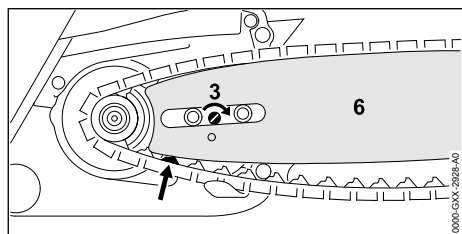
- ▶ タイストラップの矢印が回転方向を向くようにして、チェンをバー上側の溝に取り付けます。



- ▶ ガイドバーをチェンと共にチェンソーに取り付け、以下を点検します：
 - － チェンのドライブリンクがチェンスプロケット (7) の歯にはまっている。
 - － カラースタッド (5) がガイドバー (6) の後部にあるスロットに入っている。
 - － テンショナースライド (4) のペグがガイドバー (6) の穴 (8) にはまっている。

ガイドバー (6) の向きは、どちらでも構いません。ガイドバー (6) 上の口ゴも上下逆になる場合があります。

- ▶ チェンブレイキを解除します。



- ▶ チェンがたるみなしにバーにフィットするまで、テンショニングスクリュー (3) を時計回りに回転させます。ドライブリンクがバーの溝とかみ合っているが確認します。ガイドバー (6) とチェンをチェンソーに位置決めします。
- ▶ チェンソーとぴったり重なるようにスプロケットカバー (2) を取り付けます。
- ▶ ナット (1) を取り付け、しっかりと締め付けます。

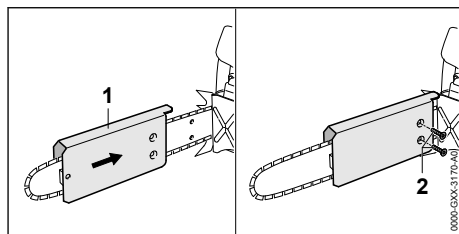
6.1.2 バーとチェンの取り外し

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ デブスリミッターを取り外します。
- ▶ チェンスプロケットカバーが取り外し可能な状態になるまでナットを反時計回りに回します。
- ▶ スプロケットカバーを取り外します。
- ▶ テンショニングスクリューを反時計回りに止まるまで回します。
この段階でチェンが緩みます。
- ▶ バーとチェンを取り外します。

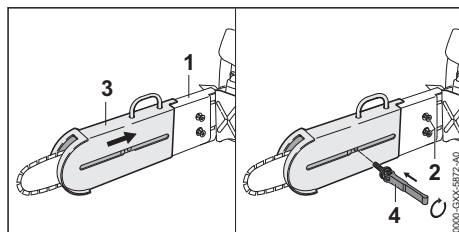
6.2 デブスリミッターの取り付けと取り外し

6.2.1 デブスリミッターの取り付け

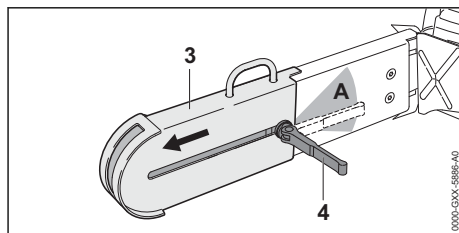
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ バーとチェンを取り付けます。



- ▶ 開口部を下向きにしてガード (1) をガイドバーにかぶせます。
- ▶ スクリュー (2) を差し込みます。



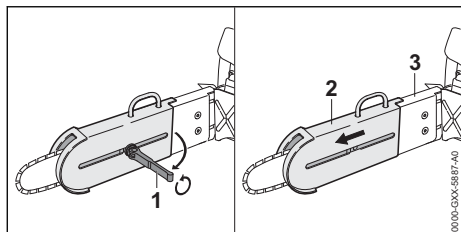
- ▶ デブスリミッター (3) をガード (1) にかぶせます。
- ▶ クイックリリースクランプ (4) を最も奥までねじ込みます。
- ▶ スクリュー (2) をしっかりと締め付けます。



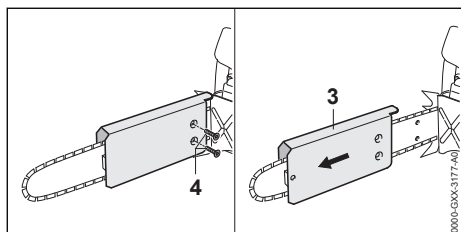
- ▶ デブスリミッター (3) をバーノーズの方向にスライドさせます。
- ▶ クイックリリースクランプ (4) を影付き範囲 (A) の方向に折り曲げます。
デブスリミッター (3) が固定され、クイックリリースクランプ (4) が影付き範囲 (A) と平行になります。

6.2.2 デブスリミッターの取り外し

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。



- ▶ クイックリリースクランプ (1) を図のように直立位置に合わせます。
- ▶ クイックリリースクランプ (1) を取り外します。
- ▶ デプスリミッター (2) をガード (3) から引き抜きます。

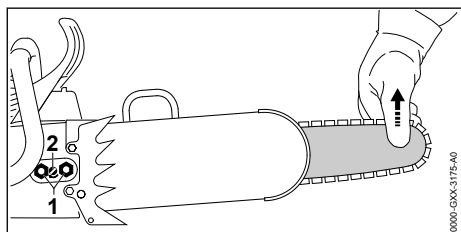


- ▶ スクリュー (4) を取り外します。
- ▶ ガード (3) をガイドバーから引き抜きます。

6.3 ソーチェンの張り方

ソーチェンは鋸断作業中に伸縮します。その結果、チェンの張り具合が変化します。作業中はチェンの張り具合を定期的に点検し、必要に応じて再調整してください。

- ▶ エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ▶ バーノーズが見えるようにデプスリミッターを調整します。



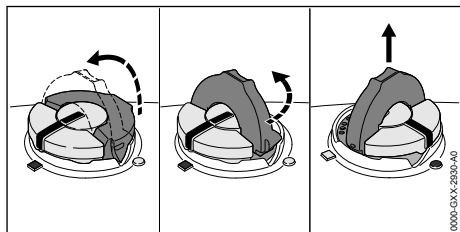
- ▶ ナット (1) を緩めます。
- ▶ チェンブレーキを解除します。
- ▶ バーノーズを持ち上げ、以下の状態になるまでテンショニングスクリュー (2) を時計回りに回します：
 - チェンがバー下側にたるみなく接触している。
 - チェンをバーに沿って二本の指で簡単に引くことができる。

- ▶ チェンをバーに沿って手で引けない場合：チェンをバーに沿って二本の指で簡単に引くことができるようになるまで、テンショニングスクリュー (2) を反時計回りに回します。
- ▶ バーノーズを持ち上げたまま、ナット (1) をしっかりと締め付けます。

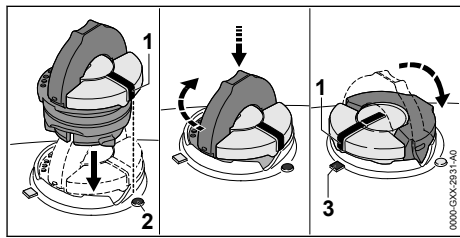
6.4 チェンオイルの給油

チェンオイルは回転するチェンを潤滑し、冷却します。

- ▶ エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ▶ オイルタンクキャップが上を向くようにチェンソーを平らな面に置きます。
- ▶ 濡らせた布でタンクキャップとその周囲を掃除します。



- ▶ オイルタンクキャップのグリップを垂直位置まで起こします。
- ▶ オイルタンクキャップを反時計回りに止まるまでまわします。
- ▶ オイルタンクキャップを取り外します。
- ▶ チェンオイルを給油します。オイルをこぼしたり、タンクからあふれさせたりしないよう注意してください。
- ▶ オイルタンクキャップのグリップが閉位置に下がったときは：グリップを垂直位置に起こします。

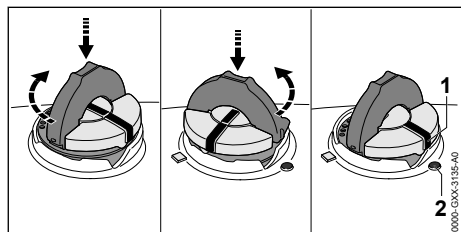


- ▶ キャップを注入口にかぶせ、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- ▶ キャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。キャップが所定の位置にはまります。印 (1) が印 (3) に合います。
- ▶ オイルタンクキャップを引き上げ、外れるかどうか点検します。

- ▶ 引き上げてもオイルタンクキャップが外れない場合：オイルタンクキャップのグリップを倒します。
オイルタンクが密封されます。

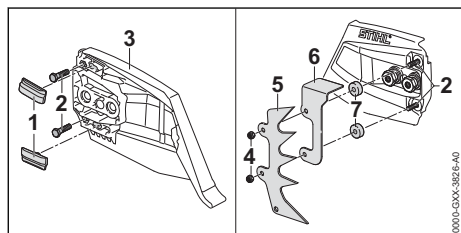
引き上げるとオイルタンクキャップが外れてしまう場合は、以下の手順に従ってください：

- ▶ オイルタンクキャップを注入口に載せません - どの位置でも構いません。



- ▶ キャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
- ▶ キャップを押し下げ、反時計回りにまわし、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- ▶ オイルタンクキャップを再び閉めます。
- ▶ オイルタンクが適切に閉まらない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
チェンソーは安全な状態ではありません。

6.5 パンパースパイクの取り付け



- ▶ スクリュー (2) をチェンスプロケットカバー (3) の穴に止まるまで挿入します。
- ▶ バンパーストリップ (1) をチェンスプロケットカバー (3) のくぼみに押し込みます。
- ▶ ワッシャー (7) を取り付けます。
- ▶ カバー (6) を所定の位置に取り付けます。
- ▶ パンパースパイク (5) を取り付けます。
- ▶ ナット (4) を取り付け、しっかりと締め付けます。

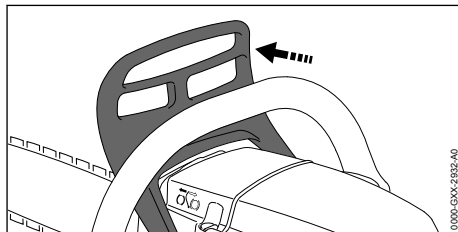
パンパースパイク (5) は取り外さないでください。

7 チェンブレーキを掛ける/解除する

7.1 チェンブレーキを掛ける

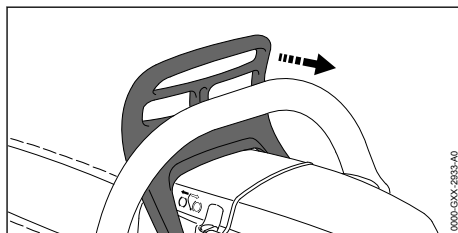
チェンソーには、チェンブレーキが搭載されています。

チェンブレーキは、強いキックバックが起きると前ハンドガードの慣性によって作動します。または、オペレーターが掛けることができます。



- ▶ ハンドガードを左手で前ハンドルから離れる方向に押します。
カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。チェンブレーキが掛かります。

7.2 チェンブレーキの解除



- ▶ ハンドガードを左手で前ハンドルの方向に引きます。
カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。チェンブレーキが解除されます。

8 燃料の混合とチェンソーへの給油

8.1 燃料の混合

本チェンソーには、ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルを 50:1 の比率で混合した混合燃料が必要です。

STIHL 社では STIHL MotoMix(モトミックス) の使用をお勧めしています。

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは

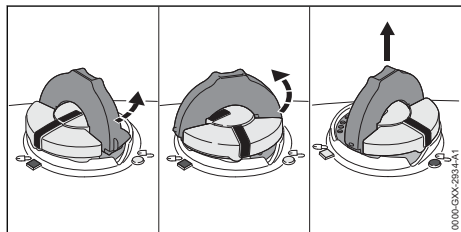
ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

- ▶ ガソリンのオクタン価が 90 RON 以上で、エタノール濃度が 10% 以下 (ブラジルでは 27% 以下) のガソリンを使用してください。
- ▶ 使用する 2 ストロークエンジンオイルが要件を満たしているか確認してください。
- ▶ 燃料の必要量に応じて、50 : 1 の混合比でガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの適正量を割り出します。混合燃料の例：
 - 20 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 1 L のガソリン
 - 60 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 3 L のガソリン
 - 100 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 5 L のガソリン
- ▶ 承認された清潔な燃料容器にまず 2 ストロークエンジンオイルを入れ、次にガソリンを加えます。
- ▶ 燃料を完全に混合してから給油してください。

8.2 チェンソーに燃料を給油する

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ チェンソーが冷めるまで待ちます。
- ▶ 燃料タンクキャップが上を向くようにチェンソーを平らな面に置きます。
- ▶ 湿らせた布で燃料タンクキャップとその周囲を掃除します。
- ▶ 燃料タンクキャップのハンドルを起こします。

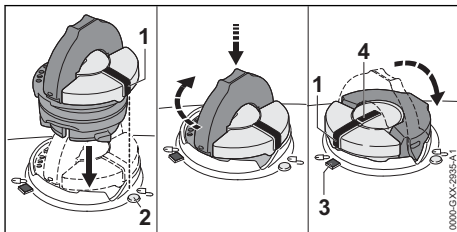


警告

- チェンソーは、使用中や気温が非常に高い環境下では高温になります。燃料の種類、標高、周囲温度、チェンソーの温度によっては、燃料が膨張してタンクの内圧が高まる場合があります。燃料タンクキャップを開けると、霧状の燃料が吹き出し、引火するおそれがあります。使用者が重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
 - ▶ チェンソーを冷ましてから燃料タンクキャップを開けてください。
 - ▶ 燃料タンクキャップは一度の操作で完全に開けるのではなく、ゆっくりと開けてください。
- ▶ 燃料タンクキャップを反時計回りに約 1/8 回転させます。燃料タンクの内圧が高まっている場合は、圧力が解放される音が聞こえます。
- ▶ タンクの内圧が解放された後、燃料タンクキャップを反時計回りにまわし、キャップと燃料タンクの印を合わせます。
- ▶ 燃料タンクキャップを取り外します。

注記

- 照明や直射日光を当てたり、極端な温度にさらしたりすると、燃料の分離や劣化が加速することがあります。混合していない燃料や劣化した燃料を給油すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
 - ▶ 燃料を完全に混合してから給油してください。
 - ▶ 30 日以上 (STIHL MotoMix の場合は 5 年以上) 保管した混合燃料は使用しないでください。
- ▶ 給油時は燃料をこぼさないよう注意し、燃料の液面とタンク上端の間に 15 mm 以上の隙間を確保してください。
- ▶ 燃料タンクキャップのハンドルが閉位置に下がったときは、ハンドルを起こしてください。

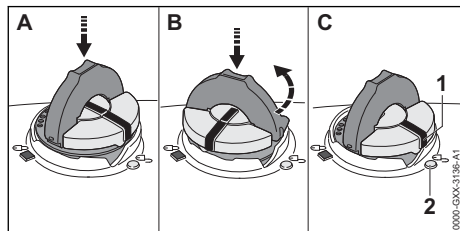


- ▶ 燃料タンクキャップを注入口にかぶせ、印 (1) を印 (2) に合わせます。

- ▶ 燃料タンクキャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
燃料タンクキャップが所定の位置にはまりません。印 (1) が印 (4) と合い、印 (3) の方を向きます。
- ▶ 燃料タンクキャップを引き上げ、外れるかどうか点検します。
- ▶ 燃料タンクキャップを引き上げても外れない場合は、ハンドルを平らに倒し、キャップの上面と同じ高さにします。
燃料タンクが密閉されます。

燃料タンクキャップを引き上げると外れてしまう場合は、以下の手順に従ってください:

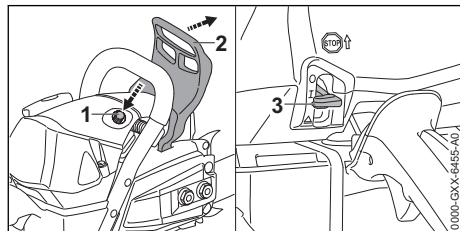
- ▶ 燃料タンクキャップを注入口に載せます。どの位置でも構いません。



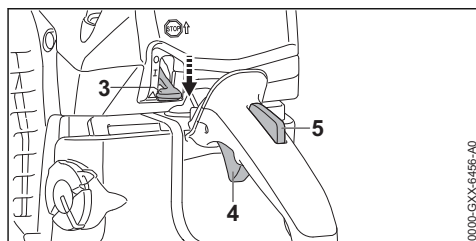
- ▶ 燃料タンクキャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
- ▶ キャップを押し下げ、反時計回りにまわし、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- ▶ 燃料タンクキャップを再び閉めます。
- ▶ 燃料タンクが依然として適切に閉まらない場合は、チェーンソーを使用しないでください。
STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
チェーンソーは安全な状態ではありません。

9 エンジンの始動と停止

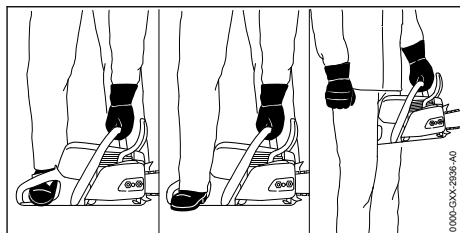
9.1 エンジンの始動



- ▶ チェンブレーキ (2) を掛けます。
- ▶ チェンガード (鞘) を抜き取ります。
- ▶ デコンパルブ (1) を押します。
- ▶ マスターコントロールレバー (3) を **I** の位置に動かします。
- ▶ エンジンが周囲温度の場合:



- ▶ スロットトリガーロックアウト (5) を押し下げ、そのまま保持します。
- ▶ スロットトリガー (4) を引き、そのまま保持します。
- ▶ マスターコントロールレバー (3) を ▲ の位置に移動し、そのまま保持します。
- ▶ スロットトリガー (4) とトリガーロックアウト (5) を放します。
マスターコントロールレバー (3) が ▲ の位置でかみ合います。



- ▶ チェンソーを次の3通りのいずれかの方法でしっかりと保持します:
 - チェンソーを平坦な地面に置きます。左手で前ハンドルを握り、チェンソーをしっかりと地面に押し付けます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。右足のつま先を後ハンドルの中に入れ、確実に押さえます。
 - チェンソーを平坦な地面に置きます。左手で前ハンドルを握り、チェンソーをしっかりと地面に押し付けます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。右足のかかとを後ハンドルの中に入れ、確実に押さえます。
 - 左手で前ハンドルを握り、チェンソーをしっかりと保持します - 親指がハンドルの下側に来るようにします。チェンソーの後ハンドルを、両足の膝上部で確実に挟みます。

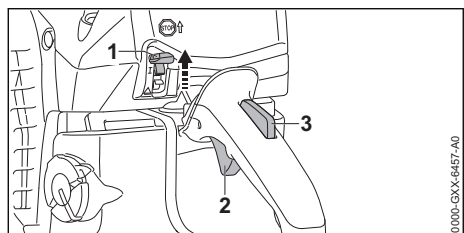


- ▶ かみ合った感じがするまで、右手でスターターグリップをゆっくり引きます。
 - ▶ エンジンが始動するまで、スターターグリップを素早く引き、スターターロープを巻き込む作業を数回繰り返します。
 - ▶ マスターコントロールレバー (3) が▲の位置に合っている場合：トリガーロックアウト (5) を押し、スロットルトリガー (4) を引きます。
- マスターコントロールレバーがIの位置に戻ります。エンジンがアイドリング回転数で作動します。

注記

- チェンブレキが損傷するおそれがあるため、チェンブレキを掛けたままエンジンを加速させないでください。
 - ▶ チェンブレキを解除してから鋸断を開始してください。
- ▶ チェンブレキを解除します。チェンソーの作動準備が整いました。
- ▶ エンジンのアイドリング中にソーチェンが回転する場合：
 - ▶ エンジンを切り、チェンブレキを掛けます。
 - ▶ チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- ▶ エンジンがつかない場合：マスターコントロールレバー (3) を▲の位置に移動し、エンジンの始動を再試行します。

9.2 エンジンを切る

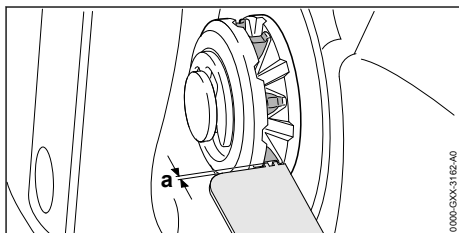


- ▶ スロットルトリガー (2) とトリガーロックアウト (3) を放します。ソーチェンが停止します。
 - ▶ マスターコントロールレバー (1) をOの位置に動かします。エンジンが停止し、マスターコントロールレバー (1) がIの位置に戻ります。
 - ▶ エンジンが停止しない場合：
 - ▶ マスターコントロールレバーを▲の位置に動かします。エンジンが停止します。
 - ▶ チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- チェンソーが故障しています。

10 チェンソーの点検

10.1 チェンスプロケットの点検

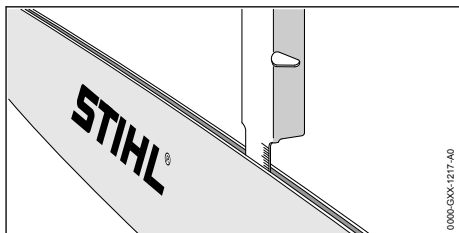
- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ チェンブレキを解除します。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り外します。
- ▶ バーとチェンを取り外します。




- ▶ STIHL ゲージを使用してスプロケットの摩耗を点検します。
 - ▶ 摩耗マークが $a = 0.5 \text{ mm}$ よりも深い場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- チェンスプロケットを交換してください。

10.2 ガイドバーの点検

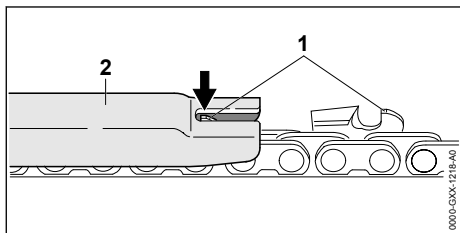
- ▶ エンジンを切り、チェンブレキを掛けます。
- ▶ デブスリミッターを取り外します。
- ▶ チェンとガイドバーを取り外します。




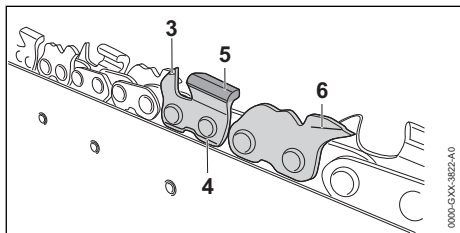
- ▶ STIHL ファイリングゲージの目盛でバーの溝の深さを測定します。
- ▶ 以下のいずれかが生じているときは、新品のガイドバーを取り付けてください：
 - ガイドバーが損傷している。
 - 測定されたバー溝の深さが、規定の最小深さ以下になっている、 19.3。
 - バーの溝が狭められているか、広がっている。
- ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

10.3 ソーチェンの点検

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ デブスリミッターを取り外します。



- ▶ STIHL ファイリングゲージ (2) を使用してデブスゲージ (1) の高さを点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ▶ デブスゲージ (1) がファイリングゲージ (2) から突き出る場合：STIHL USG を使用してデブスゲージ (1) を低くします、 16.3。



- ▶ カッターとタイストラップ上のサービスマーク (3、4、および 6) が目視できるか確認します。
- ▶ カッターの刃先 (5) が正常な状態になっているか点検します。
- ▶ カッターまたはタイストラップ上のいずれかのサービスマークが目視されない状態になっているか、刃先がなくなっている場合：ソーチェンを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- ▶ STIHL ファイリングゲージを使用し、全カッターで 30° の目立て角度が維持されているか点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。

- ▶ 30° の目立て角度が維持されていない場合：ソーチェンを再び目立てしてください。
- ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

10.4 チェンブレイキのテスト

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ ガイドバーの大部分が見えるようデブスリミッターを調整します。



警告



- チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
 - ▶ 丈夫な素材の手袋を着用してください。
- ▶ ガイドバーに沿ってチェンを手で引きます。バーに沿ってチェンを手で引けない場合は、チェンブレイキは働いています。
- ▶ バーに沿ってチェンを手で引ける場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。チェンブレイキに不具合が生じています。

10.5 操作部の点検

スロットトリガーロックアウトおよびスロットトリガー

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ ロックアウトレバーを押さずにトリガーを引いてみます。
- ▶ トリガーを引くことができる場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。スロットトリガーロックアウトが故障しています。
- ▶ スロットトリガーロックアウトを押し下げ、そのまま保持します。
- ▶ スロットトリガーを引き、放します。
- ▶ スロットトリガーが円滑に動かないか、アイドル位置に戻らない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。スロットトリガーが故障しています。

エンジンの停止

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ マスターコントロールレバーを  の位置に動かします。エンジンが停止し、マスターコントロールレバーが  の位置に戻ります。

- ▶ エンジンが停止しない場合：
 - ▶ マスターコントロールレバーを ▲ の位置に動かします。
エンジンが停止します。
 - ▶ チェンソーを使用しないでください。
STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
チェンソーが故障しています。

10.6 チェンオイルの潤滑状態点検

- ▶ エンジンを始動し、チェンブレイキを解除します。
- ▶ ガイドバーを明るい面にかざします。
- ▶ スロットルを開きます。
チェンからチェンオイルが飛び散り、明るい面上で確認できます。チェンの潤滑機能は正常に働いています。
- ▶ チェンオイルが確認できない場合：
 - ▶ エンジンを切ります。
 - ▶ チェンオイルを給油します。
 - ▶ チェンの潤滑状態を再点検します。
 - ▶ 明るい面でチェンオイルが依然として確認できない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。チェンの潤滑機能に不具合が生じています。

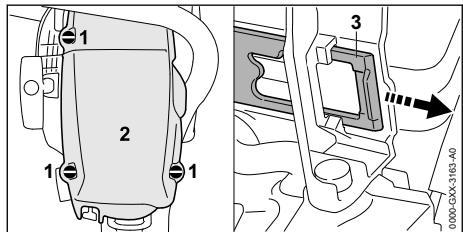
11 チェンソーの操作

11.1 冬季作業

+10°C以下の温度でチェンソーを使用すると、キャブレターが凍結することがあります。キャブレターがエンジン周囲の暖気によってさらに暖められるよう、シャッターを冬季モードに設定してください。

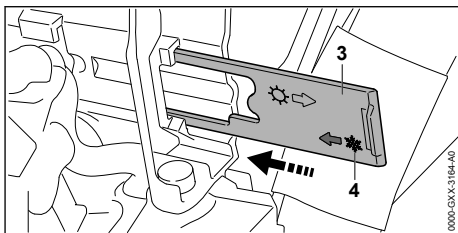
注記

- 温度が+10°Cを超えときにチェンソーを冬季モードにしておくと、エンジンがオーバーヒートすることがあります。
 - ▶ 設定を夏季モードに変更してください。
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。



- ▶ ツイストロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ シュラウド (2) を取り外します。

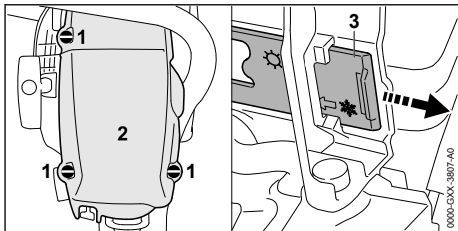
- ▶ シャッター (3) を引き出します。



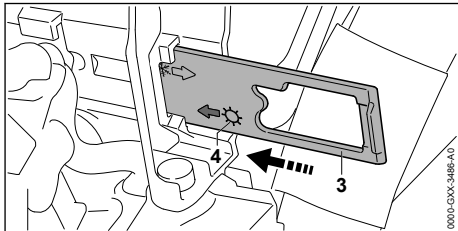
- ▶ 記号 (4) をチェンソーの方向に向け、シャッター (3) を保持します。
- ▶ シャッター (3) をガイドに止まるまで押し込みます。
かみ合うのが感じられます。
- ▶ シュラウド (2) を位置決めします。
- ▶ カチッという音が聞こえるまでツイストロック (1) を時計回りに回します。
シュラウド (1) が固定されます。

11.2 夏季作業

- +10°Cを超える温度下で作業を行うときは、チェンソーを夏季モードに設定してください。
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。



- ▶ ツイストロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ シュラウド (2) を取り外します。
- ▶ シャッター (3) を引き出します。



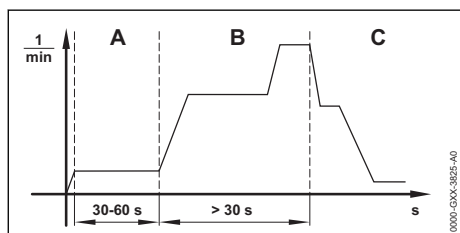
- ▶ 記号 (4) をチェンソーの方向に向け、シャッター (3) を保持します。
- ▶ シャッター (3) をガイドに止まるまで押し込みます。
かみ合うのが感じられます。
- ▶ シュラウド (2) を位置決めします。

- ▶ カチッという音が聞こえるまでツイストロックス (1) を時計回りに回します。
シユラウド (1) が固定されます。

11.3 チェンソーの較正

このチェンソーは、性能が最適化されるよう作業中に自動調整されます。較正を行うと、チェンソーの性能はより短時間で最適化されます。

- ▶ 外気温が -10°C 以下またはエンジンが冷えている場合：
 - ▶ エンジンを始動し、チェンブレーキを解除します。
 - ▶ スロットルを約 1 分間開閉させ、エンジンを暖機します。
 - ▶ エンジンを切ります。



- ▶ マスターコントロールレバーを ▲ の位置に動かします。
- ▶ チェンブレーキを掛けます。
- ▶ スロットルトリガーを握らずにエンジンをかけます。
エンジンが始動し、マスターコントロールレバーは ▲ の位置に留まります。
- ▶ スロットルトリガーを握らずにエンジンを 30 秒以上作動させます。ただし、60 秒以上は作動させないでください (A)。

警告

- チェンブレーキが解除されていると、チェンが回転することがあります - 重傷を負うおそれがあります。
 - ▶ チェンソーを本取扱説明書に従って保持します。
 - ▶ 回転するソーチェンには触れないでください。

- ▶ チェンブレーキを解除します。

注記

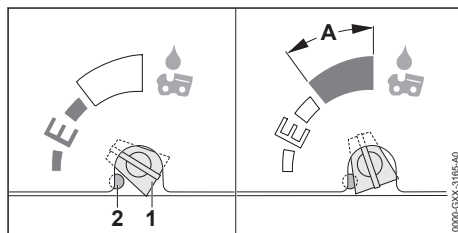
- 較正作業は、チェンソーが適切に較正される前にスロットルトリガーを放すと中止されます。その場合は、較正作業を再開させる必要があります。
 - ▶ スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。

注記

- 較正作業中は、スロットルトリガーを完全に握っておかないと、チェンソーが適切に較正されないおそれがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。
 - ▶ スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。
- ▶ スロットルトリガーを 30 秒以上握り (B)、そのまま保持します。
エンジンが加速し、チェンが回転します。チェンソーの較正が行われます。較正中は、エンジン回転数が大きく変動します。
- ▶ エンジンがストールした場合：チェンソーの再較正を試みてください。
- ▶ エンジンが繰り返しストールする場合：
 - ▶ チェンブレーキを掛けます。
 - ▶ チェンソーを使用しないでください。
STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
チェンソーが故障しています。
- ▶ エンジン回転数が大きく低下したら (C) すぐに：スロットルトリガーを放します。
エンジンがアイドリング回転数で作動します。
以上の操作でチェンソーは較正され、使用準備が整います。

11.4 オイル供給量の調整

チェンソーには供給量調整式オイルポンプが搭載されています。



オイルポンプの調整スクリュー (1) が E(Ematic) の位置に合っているときは、オイル供給量は大半の用途に適します。

オイルポンプ供給量は、様々なバーの長さ、樹木の種類、作業方法に合わせて調整することができます。オイルポンプ調整スクリュー (1) の調整範囲は、ストップ (2) によって制限されています。ストップ (2) を押すと、オイル供給量をさらに増やすことができます。

オイル供給量を増やすには

- ▶ エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ▶ オイルポンプ調整スクリュー (1) を時計回りにまわします。

オイル供給量をさらに増やすには

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ 適切な工具でストップ (2) を押します。
ストップ (2) は押された状態になります。

注記

- オイルポンプ調整スクリュー (1) が 'A' 部分を指しているときは、オイルタンク内のオイルはより短時間でなくなります。ソーチェンの潤滑が適切ではなくなる時期が通常よりも早く到来します。
 - ▶ オイルタンクに最大量のオイルを給油してください。
 - ▶ オイルの増量供給が不要になった時点で、オイルポンプ調整スクリューを 'A' 部分から左側へ回してください。

- ▶ オイルポンプ調整スクリュー (1) を時計回りにまわします。

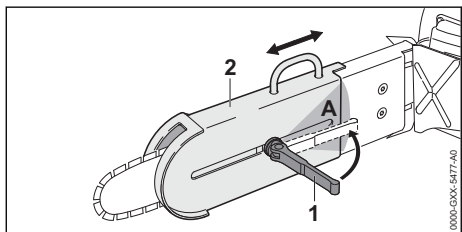
オイル供給量を減らすには

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ オイルポンプ調整スクリュー (1) を反時計回りにまわします。

11.5 デプスリミッターの調整

デプスリミッターは、用途に応じて調整できます。デプスリミッターの調整によってガイドバーの最大切り込み深さが決まります。

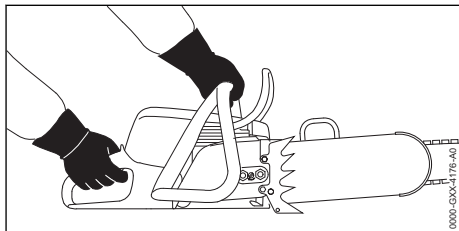
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。



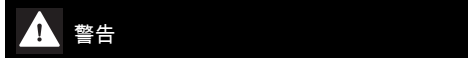
- ▶ クイックリリースクランプ (1) を図のように直立位置に合わせます。
- ▶ 必要な切り込み深さに達するまで、デプスリミッター (2) をパワーヘッドまたはバーノーズの方向にずらします。
- ▶ クイックリリースクランプ (1) を影付き範囲 (A) の方向に折り曲げます。
- ▶ デプスリミッター (2) が固定され、クイックリリースクランプ (1) が影付き範囲 (A) と平行になったか確認します。

デプスリミッター (2) が固定され、クイックリリースクランプ (1) が影付き範囲 (A) と平行になったならば、デプスリミッターは適切に調整されています。

- ▶ デプスリミッター (2) を動かすことができる場合：
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を図のように直立位置に合わせます。
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を時計回りに回します。
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を影付き範囲 (A) の方向に折り曲げます。
デプスリミッター (2) が固定され、クイックリリースクランプ (1) が影付き範囲 (A) と平行になります。
- ▶ クイックリリースクランプ (1) を折り曲げることができない場合：
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を図のように直立位置に合わせます。
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を反時計回りに回します。
 - ▶ クイックリリースクランプ (1) を影付き範囲 (A) の方向に折り曲げます。
デプスリミッター (2) が固定され、クイックリリースクランプ (1) が影付き範囲 (A) と平行になります。

11.6 チェンソーの保持と操作

- ▶ 左手で前ハンドルを握り、右手でコントロールハンドルを握ってチェンソーを保持し、制御します。左手の親指を前ハンドルにかけ、右手の親指をコントロールハンドルにかけてください。

11.7 切断作業

- キックバックが生じると、チェンソーがオペレーターの方向に跳ね上がることがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
 - ▶ 常にチェンを最高速で作動させて鋸断してください。
 - ▶ バーの先端上部 1/4 部分を使用しないでください。
- ▶ チェンを最高速で作動させ、ガイドバーを垂直にして切断を開始します。
- ▶ 鋸断の最後の部分では、チェンソーの重量を支えてください。

12 作業後

12.1 作業後

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ チェンソーが冷めるまで待ちます。
- ▶ チェンソーが濡れている場合：チェンソーを乾かします。
- ▶ チェンソーを清掃します。
- ▶ エアフィルターを清掃します。
- ▶ バーとチェンを清掃します。
- ▶ チェンスプロケットカバーのナットを緩めます。
- ▶ テンショニングスクリューを反時計回りに 2 回転させます。
この段階でチェンが緩みます。
- ▶ チェンスプロケットカバーのナットを締め付けます。
- ▶ ガイドバーを完全に覆うようにデブスリミッターを調整します。

13 運搬

13.1 チェンソーの運搬

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ ガイドバーを完全に覆うようにデブスリミッターを調整します。

チェンソーの運搬

- ▶ チェンソーは、右手で前ハンドルを持ち、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。

チェンソーの車両輸送

- ▶ 倒れたり、ずれたりしないようチェンソーを固定してください。

14 保管

14.1 チェンソーの保管

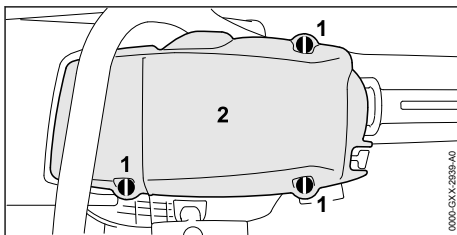
- ▶ エンジンを停止して、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ デブスリミッターがガイドバー全体をカバーするように、これを設定します。
- ▶ チェンソーは以下の条件が満たされるように保管してください：
 - チェンソーが倒れたり動いたりしないようにすること。
 - チェンソーが子供の手の届かないところにあること。
 - チェンソーが清潔かつ乾燥した状態にあること。
- ▶ チェンソーを 30 日以上保管する場合：
 - ▶ デブスリミッターを取り外します。
 - ▶ ガイドバーとソーチェンを取り外します。
 - ▶ 燃料タンクキャップを開けます。
 - ▶ 燃料タンクを空にします。
 - ▶ 燃料タンクキャップを閉めます。

- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合：手動燃料ポンプを最低 5 回押します。
- ▶ エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。

15 清掃

15.1 チェンソーの清掃

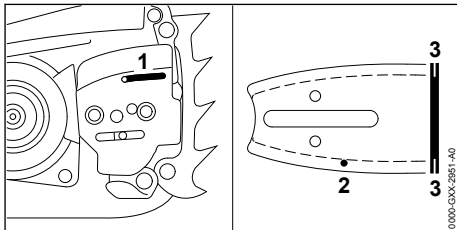
- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ チェンソーが冷めるまで待ちます。
- ▶ チェンソーを湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤で拭きます。
- ▶ 冷却風吸入部を柔らかいブラシで清掃します。



- ▶ ツイストロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ シュラウド (2) を取り外します。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り外します。
- ▶ 柔らかいブラシ、湿らせた布、または STIHL 樹脂溶剤を使用してシリンドラーフィンとシュラウドの内側を清掃します。
- ▶ スプロケット周辺部を湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- ▶ シュラウド (2) を位置決めします。
- ▶ カチッという音が聞こえるまでツイストロック (1) を時計回りに回します。
シュラウドが固定されます。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り付けます。

15.2 バーとチェンの清掃

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ デブスリミッターを取り外します。
- ▶ バーとチェンを取り外します。



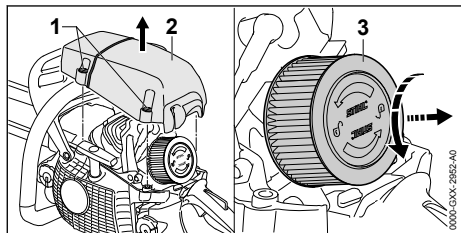
- ▶ オイルポート (1)、オイルインレット孔 (2)、バーの溝 (3) を柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。

- ▶ ソーチェンを柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- ▶ バーとチェンを取り付けます。
- ▶ デブスリミッターを取り付けます。

15.3 エアフィルターの清掃

エアフィルターには非常に細かい粉塵が溜まることがあります。そうした粉塵はフィルターを詰まらせるおそれがあり、ブラシをかけたなり、叩いたりしても取り除けないことがあります。エアフィルターは洗浄剤で清掃する必要があります。

- ▶ エンジンを切り、チェンブレイキを掛けます。

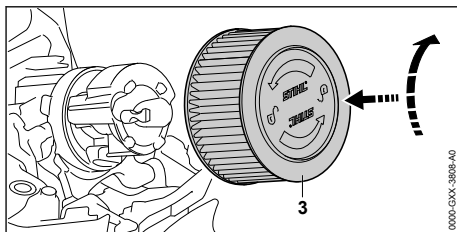


- ▶ ツイストロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ シュラウド (2) を取り外します。
- ▶ エアフィルター (3) 周辺部を濡らせた布または柔らかいブラシで清掃します。
- ▶ エアフィルター (3) を手で反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ エアフィルター (3) を取り外します。
- ▶ 流水でエアフィルター (3) 外側から大きなゴミを洗い流します。
- ▶ エアフィルター (3) が損傷している場合：新品のエアフィルター (3) を取り付けてください。

警告

- 皮膚に付着したり、目に入ったりすると、洗浄剤は炎症を引き起こすおそれがあります。
 - ▶ 洗浄剤に同梱されている取扱説明書に従ってください。
 - ▶ 洗浄剤には触れないでください。
 - ▶ 洗浄剤が皮膚に付着したときは：付着した部分を大量の石鹸と水で洗浄してください。
 - ▶ 洗浄剤が目に入ったときは：多量の水で 15 分以上洗眼し、医師の診察を受けてください。
- ▶ エアフィルター (3) の外側と内側に STIHL 特殊洗浄剤または pH 値が 12 以上の洗浄剤を吹き付けます。
- ▶ STIHL 特殊洗浄剤または洗浄剤が効果を発揮するまで 10 分間待ちます。

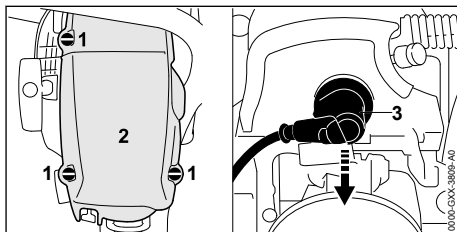
- ▶ 柔らかいブラシを使用してエアフィルター (3) の外側を清掃します。
- ▶ エアフィルター (3) の外側と内側を流水ですすぎます。
- ▶ エアフィルター (3) を自然乾燥させます。



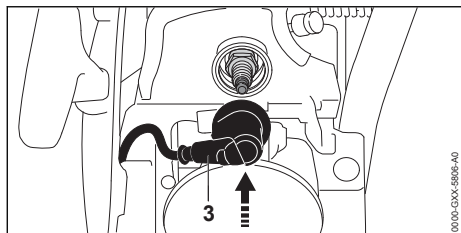
- ▶ エアフィルター (3) を手で所定の位置に押し込み、時計回りに回してかみ合わせます。“STIHL”のロゴを水平位置に合わせます。
- ▶ シュラウド (2) を位置決めします。
- ▶ カチツという音が聞こえるまでツイストロック (1) を時計回りに回します。シュラウド (1) が固定されます。

15.4 スパークプラグの清掃

- ▶ エンジンを停止して、チェンブレイキを掛けます。
- ▶ チェンソーを冷ましてください。



- ▶ シュラウドロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ フード (2) を取り外します。
- ▶ スパークプラグターミナル (3) を引き抜きます。
- ▶ スパークプラグ周辺部が汚れている場合：スパークプラグ周辺部を布で清掃します。
- ▶ スパークプラグを回して外します。
- ▶ スパークプラグを布で清掃します。
- ▶ スパークプラグが腐食している場合：スパークプラグを交換します。



- ▶ スパークプラグをねじ込んで、しっかりと締め付けます。
 - ▶ スパークプラグターミナル (3) をしっかりと押し付けます。
 - ▶ フード (2) を装着します。
 - ▶ シュラウドロック (1) を時計回りに 1/4 回転させます。
- シュラウドロックはロックされています。

16 整備

16.1 整備間隔

整備間隔は、周囲条件と作業条件によって変化します。STIHL 社では次の間隔による整備をお勧めしています：

チェンブレイキ

- ▶ チェンブレイキは、以下の間隔で STIHL サービス店に整備を依頼してください：
 - － 頻繁な使用時：3 ヶ月毎
 - － 時々の使用時：6 ヶ月毎
 - － たまに使用する場合：毎年

100 運転時間毎

- ▶ スパークプラグを交換します。

毎週

- ▶ チェンスプロケットを点検します。
- ▶ ガイドバーの点検とバリ取りを行います。
- ▶ ソーチェーンの点検と目立てを行います。

毎月

- ▶ STIHL サービス店にオイルタンクの清掃を依頼してください。
- ▶ STIHL サービス店に燃料タンクの清掃を依頼してください。
- ▶ STIHL サービス店に燃料タンクのピックアップボディの清掃を依頼してください。

毎年

- ▶ STIHL サービス店に燃料タンクのピックアップボディの交換を依頼してください。

16.2 ガイドバーのバリ取り

ガイドバーの外端部にはバリが生じることがあります。

- ▶ バリは平ヤスリまたは STIHL ガイドバードレッシングツールを使用して取り除いてください。
- ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店に連絡してください。

16.3 ソーチェーンの目立て

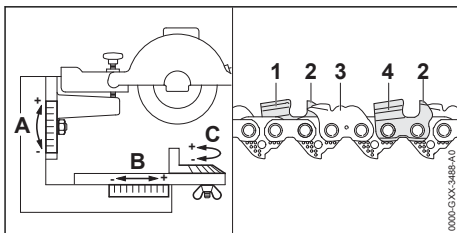
ソーチェーンを適切に目立てするには、練習を重ねる必要があります。

STIHL 社では、ソーチェーンの目立てを STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています。



警告

- チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
 - ▶ 丈夫な素材の手袋を着用してください。



- ▶ STIHL USG 汎用目立て工具で右側カッター (4) を目立てします。次の設定を使用してください：
 - － 目盛 A：+10°
 - － 目盛 B：0°
 - － 目盛り C：+15°
- ▶ STIHL USG 汎用目立て工具で左側カッター (1) を目立てします。次の設定を使用してください：
 - － 目盛 A：+10°
 - － 目盛 B：0°
 - － 目盛り C：-15°
- ▶ STIHL USG 汎用目立て工具でデブスゲージ (2) とタイストラップ (3) を下げます。次の設定を使用してください：
 - － 目盛 A：+40°
 - － 目盛 B：0°
 - － 目盛り C：0°

17 修理

17.1 チェンソー、ガイドバー、ソーチェーンの修理

ユーザーはチェンソー、ガイドバー、ソーチェーンを修理できません。

- ▶ チェンソー、ガイドバー、ソーチェンが損傷した場合：チェンソー、ガイドバー、ソーチェン

を使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。

18 トラブルシューティング

18.1 チェンソーのトラブルシューティング

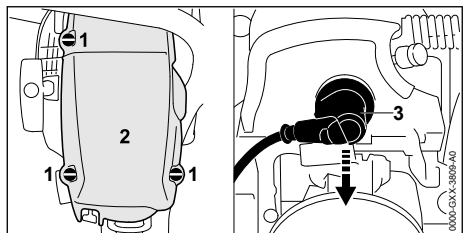
大半の不具合は、同じ原因で引き起こされます。

- ▶ 以下の作業を行います：
- ▶ エアフィルターを掃除します。
 - ▶ スパークプラグを清掃するか、交換します。
 - ▶ チェンソーを冬季または夏季用に調整します。
- ▶ 引き続き不具合が解消されない場合：下表に記載されている作業を行ってください。

状態	原因	処置
エンジンが始動しない。	燃料タンク内の燃料が不足している。	▶ 燃料を混合し、チェンソーに給油します。
	エンジンが燃料を吸い込みすぎている。	▶ 燃焼室を換気します。
	キャブレターが過熱している。	▶ チェンソーが冷めるまで待ちます。
	キャブレターが凍結している。	▶ チェンソーを+10°Cまで暖機します。
エンジンのアイドリングが不安定。	キャブレターが凍結している。	▶ チェンソーを+10°Cまで暖機します。
アイドリング回転中にエンジンがストールする	キャブレターが凍結している。	▶ チェンソーを+10°Cまで暖機します。
加速不良	チェンが張り過ぎている。	▶ チェンを適切に張ります。
	チェン潤滑システムがチェンオイルを十分に供給していない。	▶ オイル供給量を増やします。
エンジンが最大回転数に達しない。	チェンソーが周囲条件に対して適切に調整されていない。	▶ チェンソーを校正します。
スロットルを開いても、ソーチェンが回転しない。	チェンブレイキが掛かっている。	▶ チェンブレイキを解除します。
	チェンが張り過ぎている。	▶ チェンを適切に張ります。
	バーノーズスプロケットが詰まっている。	▶ バーノーズスプロケットを STIHL 樹脂溶剤で掃除します。
鋸断中に煙が発生するか、焦げる臭いがする。	チェンが適切に目立てされていない。	▶ チェンを適切に目立てします。
	タンク内のチェンオイルが不足している。	▶ チェンオイルを給油します。
	チェン潤滑システムがチェンオイルを十分に供給していない。	▶ オイル供給量を増やします。
	チェンが張り過ぎている。	▶ チェンを適切に張ります。
	チェンソーを適切に使用していない。	▶ 適切な使用方法の説明を受け、練習を積んでください。

18.2 燃焼室の換気

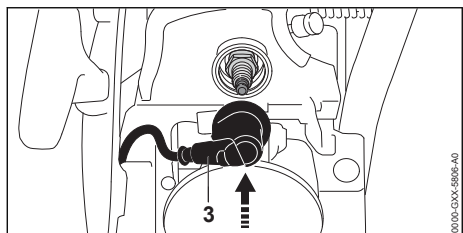
- ▶ チェンブレイキを掛けます。



- ▶ ツイストロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ▶ シュラウド (2) を取り外します。
- ▶ スパークプラグターミナル (3) を抜き取ります。
- ▶ スパークプラグを取り外します。
- ▶ スパークプラグを乾かします。

警告

- スパークプラグターミナルを取り外してスターターグリップを引くと、エンジン外部で火花が発生することがあります。引火または爆発が起きやすい環境下では、火花によって火災や爆発が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
- ▶ マスターコントロールレバーを \odot の位置に動かし、保持したままスターターグリップを引いてください。
- ▶ マスターコントロールレバーを \odot の位置に移動し、そのまま保持します。
- ▶ スターターグリップ (3) を引き、手を添えて戻す作業を数回繰り返します。
- ▶ 燃焼室が換気されます。
- ▶ スパークプラグを差し込み、締め付けます。



- ▶ スパークプラグターミナル (3) を接続し、しっかりと押し込みます。
- ▶ シュラウド (2) を位置決めします。
- ▶ カチッという音が聞こえるまでツイストロック (1) を時計回りに回します。
- ▶ ツイストロックがロックされます。

19 技術仕様

19.1 STIHL MS 462 C-M R チェンソー

- 排気量：72.2 cc
- ISO 7293 に準拠したエンジン出力：4.4 kW (6 bhp)
- ISO 11681 に準拠したアイドル回転数：2,800 ± 50 rpm
- 承認されているスパークプラグ：NGK CMR6H (STIHL 供給)
- 電極ギャップ：0.5 mm
- ガイドバーとチェンなしの乾燥重量 6.5 kg
- 燃料タンク容量：720 cc (0.72 l)
- オイルタンク容量：340 cc (0.34 l)

19.2 チェンスプロケットとチェンスピード

以下のチェンスプロケットを使用できます：

- 7 枚歯、3/8" 用
 - ISO 11681 に準拠した最大チェンスピード：28.9 m/s
 - 最大出力時のチェンスピード：21.7 m/s

19.3 ガイドバー溝の最小深さ

溝の最小深さは、ガイドバーのピッチによって異なります。

- 3/8"：6 mm

19.4 騒音値および振動値

- ISO 22868 に準拠して測定した音圧レベル L_{peq} ：108 dB(A)。音圧レベルの特性値は 2 dB(A) です。
- ISO 22868 に準拠して測定した音響パワーレベル L_{weq} ：118 dB(A)。音響パワーレベルの特性値は 2 dB(A) です。
- ISO 22867 に準拠して測定した振動値 $a_{hv,eq}$ ：
 - ハンドルバー：3.3 m/s²。振動値の特性値は 2 m/s² です。
 - コントロールハンドル：2.7 m/s²。振動値の特性値は 2 m/s² です。

振動に関する指令 2002/44/EC の遵守に関する情報は、www.stihl.com/vib に記載されています。

19.5 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation) 規制を意味します。

REACH 規定の遵守に関する詳細については、www.stihl.com/reach をご覧ください。

19.6 排気ガス

欧州連合の型式承認手続きで測定された CO₂ 値は、製品別技術データで www.stihl.com/co2 に明記されています。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。型式認定は、エンジンを改造すると無効になります。

20 バーとチェーンの組み合わせ

20.1 STIHL MS 462 C-M R チェンソー

以下のガイドバーとソーチェーンを装着できます：

- － ガイドバー：ローロマチックスーパー
 - － ピッチ：3/8"
 - － 溝幅：1.6 mm
 - － 長さ：50 cm
 - － ノーズプロケット歯数：11
- － ソーチェーン：36 RDR (3944 型)
 - － ピッチ：3/8"
 - － ドライブリンクゲージ：1.6 mm
 - － ドライブリンク数：72

ガイドバーの切断長は、使用するチェーンとソーチェーンによって異なります。実際の切断長は、規定の長さよりも短い場合があります。

21 スペアパーツおよびアクセサリ

21.1 スペアパーツおよびアクセサリ

STIHL これらの記号は、STIHL 純正のスペアパーツと STIHL 純正のアクセサリに付けられています。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリの使用をお勧めしています。

STIHL 社は市場に出回っている商品を継続的に調査しておりますが、他社製スペアパーツとアクセサリの信頼性、安全性、適性を判断することはできません。そのため、STIHL 社はそうした部品の使用を許可しておりません。

STIHL 純正の交換部品と STIHL 純正のアクセサリは、STIHL サービス店から入手することができます。

22 廃棄

22.1 チェンソーの廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。

- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

23 EC 適合証明書

23.1 チェンソー STIHL MS 462 C-M R

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstraße 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

- － モデル：チェンソー
- － 製造ブランド：STIHL
- － タイプ：MS 462 C-M R
- － シリアル番号：1142
- － 排気量：72.2 cm³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：EN ISO 11681-1、EN 55012、EN 61000-6-1。

指令 2006/42/EC 第 12 条第 3 項(b)に準拠した EC 型式試験の実施機関：DPLF, Deutsche Prüf- und Zertifizierungsstelle für Land- und Forsttechnik GbR (NB 0363), Spremberger Straße 1, 64823 Groß-Umstadt, Germany

－ 認証番号：K-EG-2016/7987

音響パワーレベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 9207 基準に従って決定されています。

- － 音響パワーレベル測定値：119 dB(A)
- － 音響パワーレベル保証値：121 dB(A)

技術資料は ANDREAS STIHL AG & Co. KG の製品認証部に保管されています。

製造年と機械番号は、チェンソーに表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人 

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations

24 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-787-4321-B



0458-787-4321-B